

カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格試験

—CTELに着目して—

末藤 美津子

要旨

カリフォルニア州の公立学校では、キンダーから 12 学年に在籍する児童生徒の約五分の一に当たる 120 万人ほどが、英語の能力が十分でない英語学習者である。こうした児童生徒への対応として、2009 年 7 月から「英語学習者・バイリンガル教員資格法」が施行されることとなり、英語学習者を教えるための資格とバイリンガル教員資格が明確にされた。カリフォルニア州のすべての教員には、英語学習者を教えるための「英語能力向上 (ELD)」と「英語による特別教科教育 (SDAIE)」の教授資格を持つことが求められる一方、バイリンガル教員には、ELD と SDAIE に加えて、児童生徒の第一言語の能力を高めることと第一言語による教科教育を実施することが求められるようになった。本稿は、このバイリンガル教員の資格要件を取り上げ、資格試験の一つである CTEL に着目し、カリフォルニア州のバイリンガル教員に求められる資質・能力の一端を明らかにする。

I はじめに

アメリカならびにカリフォルニア州における教員免許制度に関する国内の先行研究としては、八尾坂修『アメリカ合衆国教員免許制度』（風間書房、1998 年）、高橋靖直「アメリカの教員免許制度—カリフォルニア州とマサチューセッツ州の更新制を中心として—」（文教大学『教育研究所紀要』16 巻、2007 年、pp.17-24）、山田礼子「アメリカにおける教員免許資格と大学での教員養成プログラム：州ごとに異なるミッションや教員養成プログラム」（『カレッジマネジメント』156、2009 年、pp.50-53）、伊東弥香「日本の英語教員のための養成・研修の基準化—米国カリフォルニア州の免許制度からの一考察—」（青山学院大学教育学会『教育研究』第 53 号、2009 年、pp.113-138）などを挙げることができるが、いずれもバイリンガル教員に焦点を当てたものではない。一方、カリフォルニア州のバイリンガル教員の資格や養成を扱ったものとしては、滝沢潤の「カリフォルニア州における言語マイノリティの教育保障に関する研究—1990 年代の LEP 教員免許制度改革を中心に—」（中国四国教育学会編『教育学研究紀要』第 45 巻第 1 部、1999 年、pp.413-418）、ならびに「カリフォルニア州における言語マイノリティ教育の規制緩和—アカウンタビリティの質的变化を中心に—」（『比較教育学研究』第 27 号、2001 年、pp.101-119）がある。

これらの研究は 2000 年あたりまでを対象としており、それ以降のカリフォルニア州のバイリンガル教員の資格と養成を扱っているのは、末藤の先行研究⁽¹⁾のみである。

カリフォルニア州の公立学校では、キンダーから 12 学年に在籍する児童生徒の約五分の一に当たる 120 万人ほどが、英語の能力が十分でない英語学習者 (English Learners: EL) である⁽²⁾。こうした児童生徒に対応するため、1998 年に教員免許法が改正され (SB2042) ⁽³⁾、すべての教員免許取得志願者に、英語学習者のための「英語能力向上 (English Language Development: ELD)」と「英語による特別教科教育 (Specially Designed Academic Instruction in English: SDAIE)」の教授資格が求められるようになった。ELD とは、英語学習者の英語の聞く技能、話す技能、読む技能、書く技能を向上させるために特別に考案された授業で、第二言語としての英語 (English as a Second Language: ESL)、英語以外の言語話者への英語教育 (Teaching English to Speakers of Other Languages: TESOL) とも呼ばれている。SDAIE とは、英語学習者がカリキュラムを理解できるようにと特別に準備された、英語による教科内容の授業である。

2009 年 7 月からは「英語学習者・バイリンガル教員資格法 (AB1871)」⁽⁴⁾が施行されることとなり、英語学習者を教えるための資格とバイリンガル教員資格が明確にされた。カリフォルニア州のすべての教員には、英語学習者を教えるための ELD と SDAIE の教授資格を持つことが求められる一方、バイリンガル教員には、ELD と SDAIE に加えて、児童生徒の第一言語の能力を高めることと第一言語による教科教育を実施することが求められるようになった。現在、カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格は、アラビア語、アルメニア語、広東語、ペルシア語、フィリピン語、フランス語、ドイツ語、ミャオ語、日本語、クメール語、韓国語、中国語、パンジャブ語、ロシア語、スペイン語、ベトナム語の 16 種類の言語で取得できる⁽⁵⁾。本稿は、このバイリンガル教員の資格要件を取り上げる。

カリフォルニア州ではカリフォルニア州教員免許委員会 (California Commission on Teacher Credentialing: CCTC) が教員免許に関する業務を統括しており、バイリンガル教員の資格としては、以下の三つの要件をすべて満たすことが求められている⁽⁶⁾。

- (1) 有効なカリフォルニア教員免許を保有する者、あるいは、特別クラス教員資格 (Special Class Authorization) として有効な言語療法士資格、医療支援員資格、リハビリ支援員資格を保有する者、あるいは、特別支援教育教員資格として有効なスクールナースの教育支援員資格を保有する者
- (2) 以下のどれかが証明できること
 - a. 有効な言語能力向上専門家 (Language Development Specialist: LDS) 資格、CLAD 資格⁽⁷⁾、英語学習者教授資格あるいは優勢な言語による CLAD 資格 (CLAD Emphasis) を伴う教員免許状

- b. CLAD 資格に相当するか、以下のどれかの条件に基づく英語学習者教授資格を伴う教員免許状
- ・「カリフォルニアの英語学習者のための教員（California Teachers of English Learners: CTEL）」試験の 1、2、3 すべてに 10 年以内に合格すること
 - ・英語学習者教授資格を示すカリフォルニア州以外の州の教員免許を保有していること
 - ・全米教職専門基準委員会（National Board for Professional Teaching Standards: NBPTS）⁽⁸⁾の児童期初期か児童期中期の「新たな言語としての英語（English as a New Language）」の教員資格証、あるいは青年期前期から成人の「新たな言語としての英語」の教員資格証を保有していること
- (3) 以下のどれかが証明できること
- a. 「カリフォルニアの教員のための教科試験（California Subject Examinations for Teachers: CSET）」の「世界の言語（World Languages）」のテストⅡかⅢ、Ⅳ、Ⅴすべてに 10 年以内に合格すること
 - b. カリフォルニア州教員免許委員会に認定されたバイリンガル教育プログラムを修了し、プログラムを提供する機関からバイリンガル教員免許に推薦されること
 - c. CSET の「世界の言語」のテストの合格水準に対応するカリフォルニア州教員免許委員会に認定されたバイリンガル教育プログラムを修了すること

(1)は基礎資格となる教員免許を保有することを求めており、(2)と(3)はバイリンガル教員としての資質・能力を証明する試験に合格することやそれと同等の資質・能力を証明することを求めている。バイリンガル教員の資格試験としては、(2)の「カリフォルニアの英語学習者のための教員（CTEL）」試験と(3)の「カリフォルニアの教員のための教科試験（CSET）」がよく知られているので、本稿ではまず、CTEL 試験に着目することにより、カリフォルニア州のバイリンガル教員に求められる資質・能力の一端を明らかにしていく。CSET については稿を改めたい。

Ⅱ CTEL 試験の概要

カリフォルニア州教員免許委員会（CCTC）は CTEL 試験の作成と運用に関して、教育評価を手掛ける教育サービス企業であるピアソン（Pearson）と提携している。CTEL 試験は、「言語と言語能力向上」を扱う CTEL 1、「評価と教授」を扱う CTEL 2、「文化と包摂」を扱う CTEL 3 から構成されている。いずれもコンピュータを用いて実施される試験

で、CTEL 1は1時間45分の間に50問の多肢選択問題と一つの小論文が、CTEL 2は2時間45分の間に60問の多肢選択問題と二つの小論文が、CTEL 3は1時間30分の間に40問の多肢選択問題と一つの小論文が課される。志願者には年間4回、各2週間の受験期間が提供されている。2019-20年度は、2019年8月1日から8月14日、10月31日から11月13日、2020年1月30日から2月12日、4月30日から5月13日の4回となっている⁽⁹⁾。

CTEL 試験の内容は、以下のような7領域について、「CTEL」の知識、技能、能力（Knowledge, Skills, and Abilities (KSAs)）に基づく30項目から構成されている⁽¹⁰⁾。

CTEL 1 言語と言語能力向上

領域 1 言語構造と使用

- KSAs 001 音韻論と形態論
- KSAs 002 統語論と意味論
- KSAs 003 言語機能と言語の違い
- KSAs 004 談話
- KSAs 005 語用論

領域 2 付加的な言語能力向上

- KSAs 006 言語習得の理論、方法、段階
- KSAs 007 第二言語習得の理論、モデル、方法
- KSAs 008 言語能力向上に影響を及ぼす認知的、言語的、身体的要因
- KSAs 009 言語能力向上に影響を及ぼす情緒的要因
- KSAs 010 言語能力向上に影響を及ぼす社会文化的、政治的要因

CTEL 2 評価と教授

領域 1 英語学習者の評価

- KSAs 001 スタンダードに基づく評価と教授の原則
- KSAs 002 評価の役割、目的、類型
- KSAs 003 言語と教科内容の評価

領域 2 英語の読み書き能力の向上と教科教育の基礎

- KSAs 004 英語学習者のためのプログラムの基礎
- KSAs 005 英語の読み書き能力の基礎
- KSAs 006 ELD と SDAIE の教授計画と構成
- KSAs 007 ELD と SDAIE における効果的な教育実践の構成要素
- KSAs 008 ELD と SDAIE における効果的な手段の使用

領域 3 ELD と教科教育の方法論

- KSAs 009 ELD：方法論
- KSAs 010 ELD：聞くことと話すこと
- KSAs 011 ELD：読むことと書くこと
- KSAs 012 SDAIE

CTEL 3 文化と包摂

領域 1 文化ならびに文化の多様性と学業成績との関係

- KSAs 001 文化の概念と視点
- KSAs 002 文化接触
- KSAs 003 カリフォルニア州と合衆国における文化の多様性
- KSAs 004 異文化交流

領域 2 文化的包摂に関する教授

- KSAs 005 教室と学校における文化の果たす役割
- KSAs 006 文化的包摂の学習環境
- KSAs 007 家庭と地域の関わり
- KSAs 008 文化的包摂のカリキュラムと教授

カリフォルニアの公立学校の教員が英語学習者を教えるために求められている知識、技能、能力を示す KSAs は、カリフォルニアのキンダーから 12 学年までの児童生徒の教科内容のスタンダードとカリキュラム・フレームワーク（California Curriculum Frameworks）、カリフォルニアの公立学校における英語能力向上スタンダード（English-Language Development Standards for California Public Schools）、教員免許法（SB2042/AB1059）の教員養成プログラムスタンダード、教育実践到達目標（Teaching Performance Expectations: TPEs）に沿うものとなっている。この KSAs が、カリフォルニアの公立学校が英語学習者に提供する教育実践とカリキュラムを規定している。

Ⅲ CTET1 の試験問題例

「言語と言語能力向上」を扱う CTET1 では、領域 1「言語構造と使用」の多肢選択問題が 25 問、領域 2「付加的な言語能力向上」の多肢選択問題が 25 問、小論文 1 問が課されている。以下でいくつかの例題を紹介する⁽¹¹⁾。

1. 多肢選択問題

<領域 1 の例題>

小学校に入学したばかりの英語学習者は、特定の英語の音素を発音することに困難を抱えている。児童の困難を解決するための最も効果的な第一歩はどの方法か。

- A. 児童が単語の中の音素に気づいて認識できるようになるには、**van/ban, sheep/ship** といったような二つの類似している音素を比べて示すことが有効であり、そのためには、詩や歌の中に出てくる韻を踏んだ単語などを用いることがふさわしい。
- B. 人間の口の図やモデルを用いて、児童に口の特定の部分を指し示し、音素を構成している音を示すことがふさわしい。
- C. 児童が暗黙の裡に文章の中の音素に触れられるように、音素を含む例文がでてくる会話やお話を大きな声で読むのがふさわしい。
- D. 児童が音素と文字情報を結び付けることができるように、アルファベット表の対応する文字を指し示しながら、音素を繰り返し発音することがふさわしい。

【正解：A】

＜領域 2 の例題＞

英語学習者の英語能力を向上させるため、どのようなフィードバックを行うのが最も効果的か。

- A. 教員は、常に児童生徒の間違いを直ちに明確に示す。
- B. 教員は、言語使用に最も困難を抱えている児童生徒にまずフィードバックを行う。
- C. 教員は、伝える内容の理解を妨げないような無作為の間違いは無視して、重要な言語使用の間違いを常に言い直す。
- D. 教員は、どの間違いを直すかを決める際、第一言語の干渉と直接結びついていないような間違いは無視して、まずは対照的な分析を用いる。

【正解：C】

2. 小論文

さまざまな社会・政治的な要因が英語学習者の英語能力の向上に影響を及ぼしている。以下の問いに答えよ。

- ・第二言語の習得に影響を与えている社会・政治的要因を述べよ。例えば、学校のカリキュラム、母語の社会的地位の違い、言語政策、地域社会の状況など。
- ・そうした要因に関する解決策を述べよ。
- ・その解決策は、英語学習者の英語能力の向上にどのような効果を及ぼすかを述べよ。

【解答例】

英語学習者の英語能力の向上に影響を及ぼしているとても重要な社会・政治的要因の一つは、英語学習者が英語（English Language Arts: ELA）の州のスタンダードを達成するのを、あなたの学校がどれほど支援しているかということである。もし児童生徒が ELA でよい成績をとっていないならば、そうした児童生徒は他の教科で必要とされる言語の技能

を欠いている。学業成績が芳しくないと、将来、就職や高等教育を受ける機会が限られてしまう。それゆえ、あなたは、以下のことを問うべきであろう。あなたの学校の多くの英語学習者は、読むこと、書くこと、聞くこと、話すことにおいて学年相当のことを学んでいるか。多くの英語学習者は、ELA の州の標準テストで学年相当あるいはそれ以上の成績をとっているか。もしこれらの質問に否定的な答えしかできないならば、これらの質問に肯定的な答えができるような具体策を探さなければならない。

こうした状況を解決するため、教員としてあなたはまず学校内で同僚の教員とグループを作ったらよい。そうすることで、個々の教員が力を発揮できる教育方法を共有し、英語学習者の個別的教育課題に対応することができるようになる。この教員グループは、ELD を教授するための教育方法についてお互いに学んだり、能力の異なる児童生徒の指導方法について研鑽を深めたりする場所を提供できる。グループは必要に応じて集まればよい。出席することは求められていないが、推奨されている。もしグループの会合が非公式なもので楽しいものならば、教員たちは喜んで参加するだろう。校長や関係する職員にも声を掛けたらよい。そうすれば、このグループの活動は学校全体に広まっていくだろう。

英語学習者は、易しすぎる授業や難しすぎる授業を受けていると進歩しないので、こうした学内の教員たちの会合は有効な手段となるだろう。あなたの学校には、英語学習者の英語の能力に見合った適切な授業を行うことができる経験豊富な教員がいる一方で、特定の英語の能力の英語学習者しか教えた経験がない教員や、そうした経験がほとんどない教員もいる。そこで、こうした教員のグループ活動を通して、効果的な教育方法をすべての教員間で共有することができるようになり、そのことが教員たちを勇気づけ、教員たちの士気を高めることにつながる。「支援グループ」をつくることによって、学校内のすべての教員が、英語学習者の英語能力の向上を推進していく方法を熟知し、英語学習者にとってより良い教員となっていく。

IV CTEL 2 の試験問題例

「評価と教授」を扱う CTEL2 では、領域 1「英語学習者の評価」の多肢選択問題が 15 問、領域 2「英語の読み書き能力の向上と教科教育の基礎」の多肢選択問題が 25 問、領域 3「ELD と教科教育の方法論」の多肢選択問題が 20 問、小論文 2 問が課されている。以下でいくつかの例題を紹介する⁽¹²⁾。

1. 多肢選択問題

<領域 1 の例題>

ELD プログラムにおける児童生徒の評価に関して、最も重要な目的を述べているのはどれか。

- A. どの ELD スタンダードが、学年相当のレベルと ELD の到達レベルに対応しているかを定める。
- B. ELD プログラムの費用対効果を定める。
- C. 学校が ELD プログラムにどの程度成功しているかを定める。
- D. ELD スタンダードに照らして児童生徒の学業成績と学びの必要性を決める。

【正解：D】

<領域 2 の例題>

カリフォルニア州におけるあらゆる学年の英語学習者のためのプログラムには、次のどれが含まれているか。

- A. ELD を提供し、第一言語を支援する。
- B. 教科内容に基づく ELD と SDAIE を提供する。
- C. ELD とコア・カリキュラムを学ぶ機会を提供する。
- D. 教科内容に基づく ELD を提供し、第一言語の向上をめざす。

【正解：C】

<領域 3 の例題>

SDAIE の授業を計画する際の第一歩となるのは、次のどれか。

- A. 英語学習者がすでに持っている知識を活用する活動を計画する。
- B. 教科の学習と言語能力向上という二つの目的を明らかにする。
- C. 英語学習者の進歩を評価する多様な方法を明らかにする。
- D. 新しい概念と語彙を結びつける方法を計画する。

【正解：B】

2. 小論文

あらゆるレベルの英語学習者にとって最も重要な教育は、偏りのない包括的な読書プログラムである。

- ・英語学習者にとって偏りのない包括的な読書プログラムの鍵となる要素を二つ述べよ。
- ・上で述べた要素が、英語学習者の英語の読み書き能力を向上させるうえでどのような効果があるのかを説明せよ。

【解答例】

偏りのない包括的な読書プログラムは、いくつかの要素から成り立っているが、私はここでハイスクールにおいて最も重要と思われる要素を二つ述べたい。

読書プログラムの最も重要な要素の第一は、テキストの構造や目的などに関してテキストを分析したり、テキストに書かれている事実に基づいて結論を引き出したり、テキストに書かれている言葉でテキストの内容を要約したりして、読解力を高めていくことである。また、読書を通して自分自身の問題を問い直し、自分自身を見つめ直すメタ認知の技能を教えてくれることも重要である。理解力を深めるための取り組みは、英語学習者の読み書き能力の向上に効果的である。なぜならば、英語学習者は読書によって、言葉の意味を構築するために必要な手段を手に入れることができるからである。しかも、そうしたことにより英語学習者はより自立した読者となり、それはハイスクールのメインストリームの授業に移っていく際に必要不可欠となってくる。

偏りのない包括的な読書プログラムのもう一つの重要な要素は、英語学習者に読書の技能を身につけさせ、読書好きにする機会を与えることである。生徒の生活経験に関連する年齢相応のテキストは、極めて重要である。ハイスクールの教員はどの教科を担当する者でも、カリキュラムの中にフィクションのテキストとノンフィクションのテキストを含ませることができるし、他の教科の教員と学際的な単元を開発することもできる。有意義なテキストを使用することは、英語の読み書き能力を高めるうえで効果的である。なぜならば、生徒はすでに概要を知っている事柄について読書する場合には、その主題や概念についてより深く理解したり、内在化したりできるからである。加えて、文章の書かれた背景になじみがあったり、新しい単語をすでに知っている単語と結びつけることができたりすれば、新しい語彙をよりよく理解し、覚えることができる。つまり、最も重要なのは、魅力的で有意義なテキストを用いると、英語学習者はさらに多くの読書をしたいとか読書を楽しみたいと思うようになるということである。

V CTCL 3 の試験問題例

「文化と包摂」を扱う CTCL 3 では、領域 1「文化ならびに文化の多様性と学業成績との関係」の多肢選択問題が 20 問、領域 2「文化的包摂に関する教授」の多肢選択問題が 20 問、小論文 1 問が課されている。以下でいくつかの例題を紹介する⁽¹³⁾。

1. 多肢選択問題

<領域 1 の例題>

英語学習者の学業成績に影響を及ぼす文化的要因に関する研究を最も効果的に用いているのは、次のどれか。

- A. 英語学習者の学習方法は文化の違いにより異なるので、教員はそれぞれの学習方法に見合った教え方を採用する。
- B. 教員は、英語学習者を合衆国のメインストリームの文化に取り込むために計画された包括的なカリキュラムを開発する。

C. 同じ文化的背景を持つ英語学習者が同じグループになるように、教員は教育実践を組み立てる。

D. 教員は、英語学習者の言語教育に力を注ぎ、文化に関わる教育は最小限に留めておく。

【正解：A】

<領域2の例題>

多文化教育カリキュラムとして最もふさわしいのはどれか。

A. 初期のニューイングランドにおけるアメリカ先住民の暮らしに着目したサンクスギビングの単元学習

B. 祝祭の文化的・宗教的起源を調べるためのサンクスギビングの単元学習

C. 初期のニューイングランドにおけるアメリカ先住民とイギリスからの入植者の相互関係を探るサンクスギビングの単元学習

D. ニューイングランドの外の地域に祝祭が広まっていったことを調査するサンクスギビングの単元学習

【正解：C】

2. 小論文

カリフォルニアにおける移民グループは、出身国、教育程度、社会経済的地位、母語などのさまざまな社会的・文化的特質に由来する困難に直面している。

- ・カリフォルニアの移民グループの社会的・文化的特質を述べ、そうした社会的・文化的特質に由来する英語学習者の抱える深刻な困難について述べよ。
- ・上で述べた困難は、英語学習者の学校経験や学業成績にどのような影響を及ぼすか説明せよ。
- ・あなたが気づいた社会経済的な特質に由来する困難を効果的に解決するための教育方法を述べよ。

【解答例】

合衆国への移民の多くは母国で高い教育レベルを経験しているが、合衆国の教育制度で成功することができるだけの教育レベルを持ち合わせていない移民グループの人々もいる。そうした人々は、母国の極めて辺鄙な地域の出身かもしれず、近くに学校がなかったり、一定の学年以上の児童生徒のみ受け入れることができる学校しかなかったりしたのかもしれない。あるいは、そうした人々は、生涯を通じてしばしば移動しなければならなかった難民かもしれない。理由はどうあれ、移民の家族の多くは親も子も、基礎教育を受ける機会が限られていただろうし、高等教育を受ける機会などまったくなかっただろう。

低い教育レベルしか持たずに合衆国にきた英語学習者は、いくつかの困難に直面するが、最も深刻な困難は、教科の知識や技能において大きな格差を抱えて合衆国の学校に入学することだろう。このことは、こうした児童生徒の学業成績に否定的な影響を与えるだろう。なぜならば、こうした児童生徒は、英語がわからないだけでなく、数学やその他の教科において、大半のクラスメートから「遅れて」しまうからだ。その結果、こうした児童生徒にとっては、どの教科も途方もなく大きな努力を要するものとなり、学校の経験は否定的なものとなる。とりわけ、年長の移民の児童生徒ほどドロップアウトする傾向にあるようだ。

教科の知識や技能の格差を埋めるための効果的な手段の一つは、英語学習者の教科領域において現在必要とされている基礎的な内容と、そうした要望に応える個別教授を、教員が提供することだろう。例えば、3 学年の算数の技能しかない 5 学年の英語学習者に対する算数の授業は、4 学年の算数の技能を習得する機会も提供しなければならない。すると、英語学習者は学校の課題をうまく遂行する機会を得るだろうし、新しい知識と技能を身につけて、適切な時間内に学年相当の教科のスタンダードに「追いつく」ことができるようになるだろう。こうした手段は、児童生徒の学業成績を向上させ、児童生徒の学校でのすべての経験の質を高めるので、効果的である。児童生徒は、学校に在籍したいと望みし、いつか高等教育を受けてみたいと思うようになる。

VI おわりに

本稿では、カリフォルニア州のバイリンガル教員の資格試験の一つである CTET を取り上げ、その概要ならびに試験問題のいくつかを紹介した。こうした試験問題からは、カリフォルニア州のバイリンガル教員に求められる資質・能力の一端をうかがい知ることができる。

「言語と言語能力向上」を扱う CTET1 の小論文は、英語学習者の英語能力を向上させるために教員として何ができるかを問うている。解答例では、学校内の同僚教員と連携することの必要性を説いている。英語学習者への対応経験が豊富で、生徒指導の知識や技能を兼ね備えた教員と、英語学習者への対応経験がほとんどない教員が、校内で研修を積むことで、学校内のすべての教員が英語学習者への対応方法を身につけることができるとしている。これは、今日、日本の教育現場で、学校内のすべての教職員が一丸となって生徒指導に当たることを謳っている「チーム学校」の考え方に通じるものである。「チーム学校」の構想では、学内だけではなく、学外の地域住民や専門家の力を借りることも提唱している。カリフォルニアの英語学習者の英語能力向上においても、学外の人材を活用していくことも今後の可能性として考えられるであろう。

「評価と教授」を扱う CTET2 の小論文は、英語学習者の読み書き能力の向上にとって読書指導が果たす役割を問うている。解答例では、生徒は読書を通して、テキストに書か

れている内容を正確に把握することができるようになるのみならず、自分自身の抱える問題を問い直したり、自分自身を見つめ直したりする、メタ認知の技能も身につけることができると説いている。学年進行につれ授業内容が高度化していく中で、こうした考える力を養成することがいかに重要であるかも指摘されている。今日、日本においては、国際的な学力調査における日本の子どもの読解力の結果が注目を集め、国語教育のあり方が議論されている。日本においてもまさに考える力を養成するための国語教育が模索されているところであり、普遍的な課題が浮かび上がってきている。

「文化と包摂」を扱う CTCL3 の小論文は、学業成績が振るわない移民の生徒の学力向上策を問うている。解答例では、教員に対して、それぞれの教科の基礎的内容を丁寧に、必要ならば下の学年の教科内容にまで立ち戻って指導することを説いている。しかも可能であれば、個別指導を推奨している。今日、日本の学校には日本語指導が必要な児童生徒が 4 万人以上も在籍しており、日本語で行われる教科教育の授業についていけない者も少なからずいることが指摘されている⁽¹⁴⁾。こうした児童生徒への対応においても、基礎的内容を丁寧に指導し、個別指導を導入することは同様に有効な手段となるであろう。

本稿では、カリフォルニア州におけるバイリンガル教員に求められる資質・能力を見てきたが、日本において喫緊の課題となっている日本語指導を必要とする児童生徒の教育のあり方を検討する際に、参考とすべき点が少なからず示されてきたように思われる。

注

- (1) 末藤美津子「カリフォルニア州における多言語教育の取り組み」『東洋学園大学紀要』第 27 号、平成 31 年、pp. 159-170。末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第 28 号、令和 2 年。
- (2) California Department of Education, 'Facts about English Learners in California -CalEdFacts', *Data & Statistics*, April 8, 2019, <https://www.cde.ca.gov/ds/sd/cb/cefelfacts.asp>, accessed August 20, 2019.
- (3) California Commission on Teacher Credentialing, *SB 2042 Multiple Subject and Single Subject Preliminary Credential Program Standards*, Standards Adopted January 2009, <https://www.ctc.ca.gov/docs/default-source/educator-prep/standards/adoptedpreparationstandards.pdf?search=%27California+Commission+on+Teacher+Credentialing%2C+SB+2042+Multiple+Subject+and+Single+Subject+Preliminary+Credential+Program+Standards%2C%27>, accessed August 20, 2019.
- (4) California Commission on Teacher Credentialing, *Proposed Amendments to 5 California Code of Regulations Pertaining to English Learner and Bilingual Authorizations*, March 2010, <https://www.ctc.ca.gov/docs/default-source/commission/agendas/2010-03/2010-03-1h-pdf.pdf?sfvrsn=0>, accessed August 20, 2019.

- (5) California Educator Credentialing Examinations, 'English Learner and Bilingual Authorization Requirements', *California Teacher of English Learners (CTEL)*, https://www.ctcexams.nesinc.com/TestView.aspx?f=HTML_FRAG/CA_CTEL_TestPage.html, accessed August 20, 2019.
- (6) State of California Commission on Teacher Credentialing, Bilingual Authorizations, May 2017, <https://www.ctc.ca.gov/docs/default-source/leaflets/cl628b.pdf?sfvrsn=2#search=%27State+of+California+Commission+on+Teacher+Credentialing%2C+Bilingual+Authorizations%27>, accessed August 20, 2019.
- (7) CLAD 資格とは、「異文化理解、言語能力、学力の向上を目指す教員資格（Crosscultural, Language and Academic Development (CLAD)）」のことである。カリフォルニア州以外の州で教員資格を取得し、英語学習者のために必要とされている教授資格を持たない者、ならびに、英語学習者への教授資格が含まれる以前にライアン法（Ryan Act of 1970）の下でカリフォルニアの教員資格を取得した教員を対象とし、プログラムを修了することで、ELD と SDAIE の教授資格を得ることができる。なお、詳細は、末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第 28 号、令和 2 年、を参照のこと。
- (8) 全米教職専門基準委員会とは、1986 年のカーネギー財団の報告書『備えある国家—21 世紀の教員—（A Nation Prepared: Teachers for the 21st Century）』の提言を受けて、1987 年に設立された非営利組織で、教職のための専門職基準作成とそれに基づく「熟達教師」の資格認定を行っている。教師は何を知るべきで、何ができるべきかという観点から厳格な基準を作成し、その基準を満たした教師に全米委員会資格証（National Board Certificate）を発行している。なお、詳細は、末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第 28 号、令和 2 年、を参照のこと。
- (9) (5)と同じ。
- (10) California Commission on Teacher Credentialing, 'Section 2 CTEL Examination Knowledge, Skills, And Abilities (KSAs)', *California Teacher of English Learners (CTEL) Study Guide*, https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CX_SGsection2.pdf, accessed August 20, 2019.
- (11) California Commission on Teacher Credentialing, 'Section 3 Sample Test Questions for CTEL 1: Language and Language Development', *California Teacher of English Learners (CTEL) Study Guide*, https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CX_SGsection3.pdf, accessed August 20, 2019.
- (12) California Commission on Teacher Credentialing, 'Section 4 Sample Test Questions for CTEL 2: Assessment and Instruction', *California Teacher of English Learners (CTEL) Study Guide*, https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CX_SGsection4.pdf, accessed August 20, 2019.
- (13) California Commission on Teacher Credentialing, 'Section 5 Sample Test Questions for CTEL 3: Culture and Inclusion', *California Teacher of English Learners (CTEL) Study Guide*,

https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CX_SGsection5.pdf, accessed August 20, 2019.

- (14) 文部科学省『「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成 28 年度）」の結果について』、平成 29 年 6 月 13 日、http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386753.htm, accessed, August 20, 2019.

本稿は、平成 30～32 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般））『『カリフォルニア多言語教育法』の意義と課題』（研究代表者：末藤美津子、課題番号：18K02396）の成果の一部である。